

明治期の講堂知りたい

36年前 取り壊し 生徒有志が調査

高 一 崎 竜 ヶ

県立竜ヶ崎一高（龍ヶ崎 銚川光義校長）で、明治期に建築され36年前に取り壊された講堂の歴史的な意義を生徒自ら掘り起こす試みが進められている。日本史好きの生徒ら16人が集まりチームを結成し、倉庫に眠る部材を調べたり、講堂を使ったことのある同高OBに聞き取りをしたりして精力的に調査。秋までに研究結果を論文にまとめ、全国的なコンクールに応募し講堂の存在を広く知ってもらおう考え。4日の文化祭で、一般向けに鬼瓦など現存する講堂部材の一部をお披露目する。



高校生が調査研究を進めている
講堂の部材 県立竜ヶ崎一高

4日に文化祭 屋根瓦や柱展示

同高によると、調査する講堂は、同高創立から4年後の1904（明治37）年に建てられた。木造造り平屋建てで、主に入学・卒業式などの学校行事に使われたが、老朽化などのため80年に取り壊された。現在は柱など一部の部材が倉庫に保管されている。同時期に建てられた県立太田一高の講堂は、国の重要文化財に指定されている。

「今は校舎が新しく、普段の学校生活で歴史を感じる機会が少ない。昔どろいう学校だったのか、知りたかった」。チームの中心メンバーの一人で2年生の中沢祐香さん（17）は参加理由をこう話す。

調査チームは4月に全日制と定時制の生徒で結成。小野威人教諭（49）が授業などで、講堂の存在を伝えたところ、興味を持った生徒たちが集まった。

生徒たちは学校の文献を読み込み、講堂に関する年表を作成。同窓会にも足を運び、当時の様子をOBから聞き取った。5月からは、屋根の鬼瓦（横幅約1.1m、高さ約1.1m）や柱など、保管されている数十点の部材の大きさ・形・装飾などについて調査を進めている。

今後は中心メンバー4人が、OB聞き取りや、同時期に建てられた現存講堂の調査をして、秋には歴史学などの分野で全国的な権威のある「櫻井徳太郎賞」に論文を応募する考え。

2年生の永井淳さん（16）と山内浩平さん（16）は「自分たちの研究をきっかけにして、多くの人たちに竜ヶ崎一高の歴史に目を向けてもらいたい」と意欲をのぞかせている。

文化祭での公開は4日午前9時～午後2時。生徒たちが講堂の解説をする。問い合わせは同高（小野教諭）☎02997（62）2146。

（鹿嶋栄寿）